
*
*
*
* 文化財ニュース *
*



第11号

発行 加古川市教育委員会

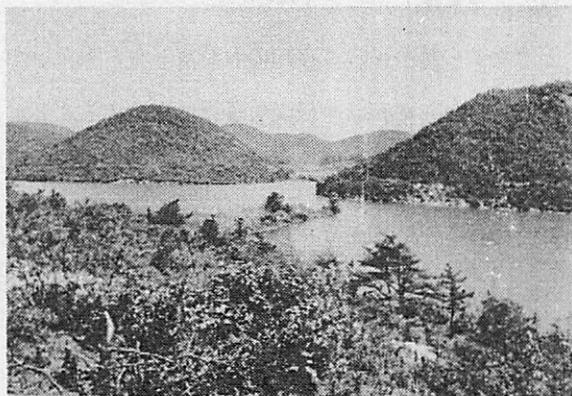
編集 加古川市文化財審議委員会

加古川市加古川町北在家23の1

TEL (078) 11151

権現ダム建設にともなう 文化財調査

市内平荘町には、県営工業用水ダムとして「平荘湖」が建設され、市内の名所としてすでにみなさんよくご存知のところですが、更に平荘町中山地区を中心



権現池の風景

に、この平荘湖を上廻る規模の「権現ダム」が建設されることになり、本年度より工事が開始されることになりました。

この中山地区には、埋蔵文化財として「古墳」2基が確認されており、熊野神社には家型石棺の蓋が4基（いずれも破片）ありますので、その他にも古墳が築造されていたものと思われます。

また、市内でも最大級の規模をもち、こんど造られる「権現ダム」の中心になる権現池を水源にもつ中山地区には、この池の水利関係にまつわる古文書をはじめ、多数の民俗資料が保存されています。

これらの文化財の調査については、市の教育委員会が、事業主体の県企業局と委託契約を結び、この7月から調査に入っております。

埋蔵文化財の古墳2基については、岡山理科大学教

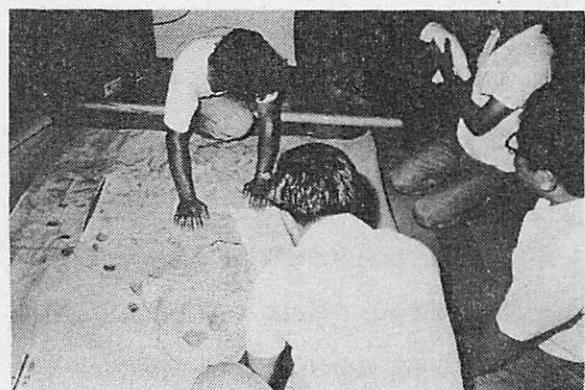
授で、県文化財専門委員の鎌木先生が調査員となり、岡山理科大の学生等によって発掘調査を実施いたしました。

またその他にも古墳があるかどうかの分布調査を、中原敏定氏の手によって実施いたしました。

民俗資料の調査については、甲南大学教授で、県文化財専門委員である和田先生を調査団長として、県教育委員会の職員、市内の高校、中、小学校の先生方を調査員として、7月末から調査に入りました。

この調査にあたっては、中山地区のみなさんの全面的なご協力を得て調査を行なっており、市の教育委員会では、調査員とともに、地元の方々に深く感謝しております。

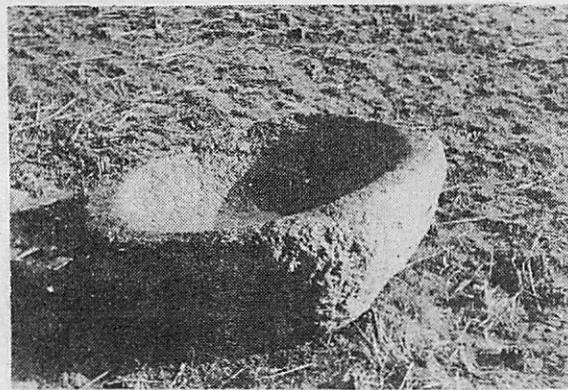
こうして調査し記録されたものは、調査の完了にともない、調査報告書にまとめて発表し、学校、図書館などの他の教育機関などで研究資料として利用するとともに、一般の方々にも希望者には実費で頒布していく予定です。



民俗資料調査中の調査員

民話の収集について

市内には色々な民話や伝説などが残されています。たとえば、加古川町美乃利には、日本武尊が産れた時の産湯に使われたという「石のタライ」にま



美乃利に残る「石のタライ」

つわる伝説、加古川町平野の石仏「洞切れの地蔵」に関する伝説など。

このようにたくさんの民話、伝説、わらべうた、民謡等が残されていますが、これらのものは親から子へ、子から孫へと語り伝えられたものです。

しかし現在では、このような民話などを知っている人は、相当年令をとった人に限られ、今の若い人でこれらの伝説などを知っている人は、殆んどないのではないかと思われます。

こうして、昔から云い伝えられ、語り伝えられてきた、民族の歴史ともいるべき民話、伝説などが、時代が変わり、世代が変わるたびに忘れきられる運命にあることは、まことに心淋しいかぎりです。

こうした傾向は、全国的な問題でもありますので、現在、全国各地で民話の収集が行なわれています。

加古川市でも、数年前からこうした問題を取りあげ、早急に民話、伝説などを収集しようと計画していましたが、本年度から本格的にこの問題に取り組み、市内各地区で収集委員をお願いして、民話、伝説、わらべうた、民謡などを収集することになりました。

収集の方法は、委員の方々が、これらのことについてよく知っておられる方のところへお伺いして、直接お話を聞かせていただくことになっていますので、ご協力下さいますようよろしくお願ひ申し上げます。

また、こうした民話、伝説などをよくご存知の方で、収集に協力していただける方、お話を聞かせていただける方がございましたら、収集委員会事務局までお知らせ願いますと係員がお伺いさせていただきます。

手紙などでお教えいただいても結構です。

せっかく知っておられる民話、伝説などもその方が亡くなられると永久に忘れされてしまうということでは、非常に淋しいことです。

どうかこの機会に、ご存知のお話などをお教えいただけ、それらの民話や伝説を子孫に伝承することができますよう、収集にご協力いただきたく存じますので、よろしくお願ひします。

本年度の民話収集委員

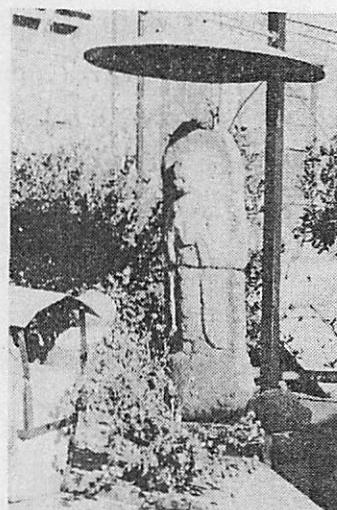
(収集地区) (氏名) (住所)

旧加古川町 水野俊二氏 加古川町南本町3丁目
22-4782

氷丘地区 沼田利治氏 加古川町間形22-7257

神野地区 石見完次氏 神野町石守 24-0134

別府地区 山田鉄雄氏 別府町西脇 37-6348



平野の洞切れの地蔵

平荘地区 長山 晋氏 平荘町小畠 28-0190
 事務局 加古川市教育委員会
 社会教育課 文化係
 T E L 24-1151 内線569

『加古川市の文化財』 編集始まる

加古川市には、現在、鶴林寺を中心に建造物、美術工芸品、史跡、民俗資料等多数の文化財が保存されていますが、これらの文化財をまとめた冊子がなく、文化財について研究しようとする市民のみなさんにご迷惑をおかけしております。

市教育委員会では、みなさんのご要望にこたえるべく、本年度から市内の主だった文化財を収録し、わかりやすく解説した冊子『加古川市の文化財』の発行に取り組むことになり、下記の先生方を編集委員にお願

いして、昭和47、48年度の2ヶ年に編集を完了し49年度にこの本を発行する計画をしています。

この編集のためには、まだまだ色々と調査をしたり研究をする必要がありますので、編集委員の先生方や事務局の者が、市内で文化財を保存されている家庭や寺院、神社等へお伺いすることがあろうと思いますが、その節にはご協力下さいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

なお、この本は学校、図書館等の教育機関に備えつけるほか、一般の方で希望者には実費で頒布する予定です。

編集委員

市文化財審議委員	長谷川慶明氏
全 上	黒崎 基一氏
加古川西高校教諭	玉岡松一郎氏
明石高校教諭	吉田 亨盛氏

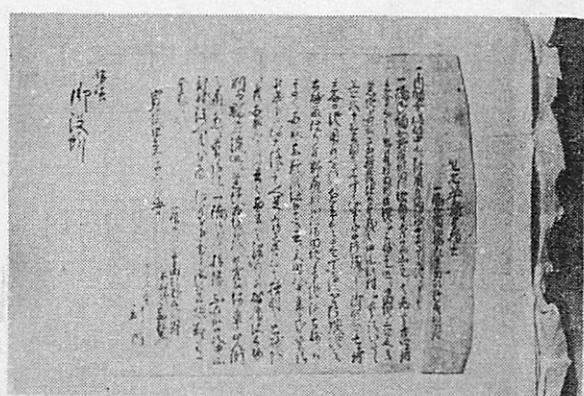
このたびの調査で作成した目録は、市教育委員会で保存し、将来、市史編集その他資料作成の参考資料として利用する計画をもっています。

調査員は、県立社高校教諭の中西千朗氏を中心としたメンバーにお願いしておりますので、古文書をお持ちの家庭、寺院、神社等へ調査にお伺いした時は、調査にご協力たまわりたく存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

古文書調査について

市教育委員会では本年度より市内の各家庭、寺院、神社等に保存されている古文書（昔から伝えられている古い文書で、例えば水利関係の文書、お祷に関する文書、寺や神社の行事に関する文書、古い手紙、許状、達状、下知状、遺言状その他諸々の文書）について調査しどこにどんな文書が保存されているかの目録を作成し、記録保存していくことになりました。

現在は、その他の民俗資料と同じく、生活様式の変革にともない、古くから伝わっているこうした古文書なども、家の新築、改築等に際して破られたり焼き捨てられたりすることが多いわけですが、これらの古い文書は、私たちの祖先の生活様式や生活状態を知るうえで、非常に重要な資料になるものですから、どうか大切に保存していただきたいと願っています。



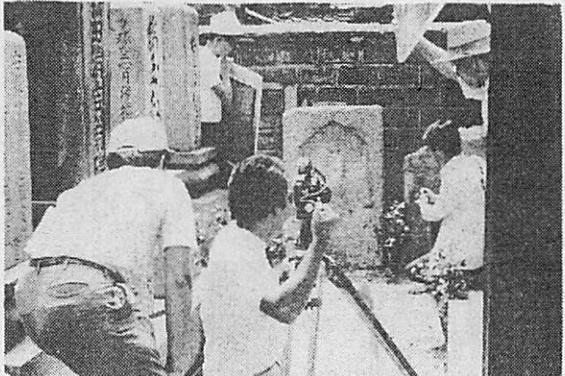
古文書の一部

16mmカラー映画 「石造文化財編」の製作

さきの文化財ニュースでお知らせしましたとおり、市教育委員会では昭和46年度から、市内の石造遺物の調査を実施していますが、この調査をもとに、これら貴重な石造文化財を16mmカラー映画に記録し、市民のみなさんはもとより、学校教育の場においても、教材映画として利用できるような映画を製作することになりました。

現在、すでに一部撮影に入っており、昭和48年度に

はプリントができ市民のみなさんに見ていただくことができるようになる予定です。
どうぞご期待ください。



映画の撮影風景

考古資料館ご案内

加古川市教育委員会では、鶴林寺本堂西の旧宝物館を借用して、市立考古資料館として開館し、市内の各遺跡から出土した考古資料を展示して、一般に公開しておりますが、その後整理をすませた資料を追加展示しておりますので、一度足をお運びいただいてご覧いただきたいと思います。

私たちの祖先が、日常の生活用具として使用していた土器、石器、骨、刀剣等の武具など多数の考古資料を展示いたしております。

資料の整理については、毎年、夏休み期間中を利用して、臨時にアルバイトを採用して資料整理を行なっています。

本年度も7月25日から8月末までを整理期間として、市教育委員会の職員が指導しながら資料整理を進めています。

今年整理をしている資料は、播磨国道加古川バイパスの建設工事中に発見され、発掘調査を行なった「溝之口遺跡」（弥生時代中期から平安時代末までの遺跡）から出土した土器、石器等を中心に、その他市内の各遺跡から発見された資料を整理いたしております。

こうして整理された資料は、考古資料所蔵台帳に登録して、散逸したりしないよう注意を払いながら、永久保存を図っています。

小破片は一括して整理登録している関係もあり、個々の資料数にくらべると少ないですが、それでも、現在約6300点の登録番号になっています。

なお、考古資料館の開館日及び開館時間は、下記のように決めて一般に公開しておりますので、お間違いのないようお願いします。

開館日 毎月 22日

3月は 21日～23日

11月は 1日～5日

開館時間 10時～16時



考古資料整理中の一コマ